

2023-02-25

GeopoliticalEconomy

マハティール、第三次世界大戦を予言

Ukraine conflict 'caused by Europeans' love of war, hegemony', says Malaysia's ex leader

<https://geopoliticeconomy.com/2023/02/25/ukraine-europe-love-war-hegemony-malaysia/>



By Ben Norton

リード

マレーシアの最も長く首相を務めた最年長の元首相マハティール・モハマッドは次のように言った。

「現在のウクライナとロシアの戦争は、ヨーロッパ人の戦争好き、覇権好き、支配好きによって引き起こされている。それはすでに第三次世界大戦の始まりとも言える。欧米の対ロシア制裁により、世界は供給不足に追い込まれ、それに耐えなければならなくなった」

マハティール氏は、次のように付け加えた。「東アジアにおける無責任な挑発にも米国は責任を負っている。台湾に武器を提供し、米国の最高幹部ナンシー・ペロシを派遣し分離主義勢力を支援した。」

以下本文

マハティールは1981年から2003年まで、そして2018年から2020年まで再びマレーシアを率いた。マハティールは、欧米の新自由主義経済と「ワシントン・コンセンサス」を長年にわたって批判してきた。彼は、帝国主義が資本主義に根ざしていることを強調してきた。

マレーシアの元指導者は、米国が台湾をめぐる中国との戦争を誘発しようとしていると非難している。

2月24日のツイッター発言の全文は以下の通り：

以下引用

私はこの記事を書くことを躊躇している。私はロシア人に味方していると非難されるかもしれない。しかし、そうではない。現在のウクライナとロシアの戦争は、ヨーロッパ人の戦争好き、覇権好き、支配好きの連中が引き起こしたものだと思う。

ロシアは、第二次世界大戦の対独戦争において西ヨーロッパ諸国（アメリカ、カナダを含む）のパートナーであった。しかしドイツが敗れた瞬間、西側諸国は自分たちのパートナーであったロシアを「次の新たな敵だ。だから、ロシアとの戦争に備えなければならない」と宣言した。

そして、ロシアに対抗する軍事同盟を結ぶために NATO が設立された。これに対抗して、ロシアはワルシャワ条約機構を立ち上げた。こうして冷戦が始まった。その結果、世界は西と東のどちらかを選ばなければならなくなった。

ロシアがワルシャワ条約機構を解体し、ソビエト連邦の国々がロシア本国から離脱した後も、NATO は解散しなかった。それどころか、ロシアの覇権から解放された国々は、ロシアの敵として NATO への加盟を促された。東欧の旧社会主義共和国が NATO に加盟し、ロシアに対する直接的脅威が高まった。ロシアは弱体化したのに、ロシアに対する圧力は強まった。

そんな中で、ロシアは軍事力を再構築し、単独で強力な西側同盟に立ち向かう事になった。NATO 軍がますますロシアに接近して、演習を行った。このため緊張が高まった。挑発されたロシアは、ウクライナへの侵攻で先手を打とうとした。

その侵攻は、第三次世界大戦の始まりと解釈しても不自然ではない。核兵器を使うという話も出ている。すでに世界は、ロシア制裁の跳ね返しによるエネルギー不足、ロシアの報復による物資不足を我慢しなくてはならなくなった。

極東での挑発もある。米国の高官が台湾を訪問したことで、中国と台湾の緊張が高まった。どちらも重武装化している。アメリカは台湾に多くの武器を売り、中国はより好戦的になった。マレーシアですら物資不足とインフレに見舞われている。いまや各国が「プラン B」を準備する必要に迫られている。なぜならこれは第三次世界大戦の始まりかもしれないからだ。

（プラン B: contingency plan と呼ぶ。非常時に備えた計画）

以上

